

さんま通信



厚生中央病院だより 第32号 2013年

冬

平成25年 新年のご挨拶

病院長 櫻井 道雄

新年あけましておめでとうございます。

戦後のベビーブームに生まれた「団塊の世代（昭和22年～26年誕生世代）」約800万人が、昨年より順次前期高齢者を迎え、今年からいよいよ恐るべき高齢化社会に突入していきます。現在、約4人に1人が65歳以上ですが、平成70年頃には4人に1人が75歳以上の超高齢化社会になると言われています。否が応でも高齢者を受け入れ、子供を大切に育てる社会システムが必要になります。

病院はすでに超高齢化社会を迎えています。当院の救急患者さんの約35%は65歳以上の人で、その約半分の方が救急車で来院します。そして救急で来院した65歳以上の患者さんの半分以上が重症者で入院を必要としています。64歳以下の人の入院率は約10%に過ぎません。当院の入院患者さんの60%が70歳以上の高齢者で占められています。これから更に高齢者が増えます。高齢化社会を見据え、当院は「高齢者の受け入れが出来る急性期病院」を目指してきました。約7年前に退院調整看護師を配置し、入院時からご家族と相談しながら今後のことを一緒に考えるシステムを作り、また、コンシェルジュナースを外来に配置し、お年寄りなどが受診しやすい環境整備を図ってきました。また、在宅医療機関や老人保健施設などとの連携強化も図ってきました。厚生中央病院は高齢者に優しい急性期病院を目指しています。

これから2～3人に1人が悪性腫瘍性疾患で亡くなる時代になります。高齢者の緩和医療を考えなければならぬ時代になりました。当院では、昨年の夏に元東京医科大学病院臨床腫瘍科科長の横山先生を迎え、緩和医療（緩和病室）の充実を図ることを決め、準備を進めています。高齢者に優しい緩和医療を目指していこうと思っています。

当院は巨大病院と異なり地域に密着した病院です。高齢化社会を迎える地域の中で、高齢者が安心して住める街を皆さんと一緒に作っていかうと思っています。そのためには皆様方のご協力が必要ですので、よろしくお願い申し上げます。これを新年のご挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。



目次 contents

平成25年 新年のご挨拶 1

お酒を飲んで顔が赤くなる人は要注意! ... 2～3

平成24年12月から「がん緩和医療外来」を設置しました 4
地域健康フェスティバル2013開催します!

どうして
さんま通信なの?

目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくないと。即座に『さんまは目黒に限る!』
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

お酒を飲んで顔が赤くなる人は要注意！

消化器病センター 外科部長

逢坂 由 昭

はじめに

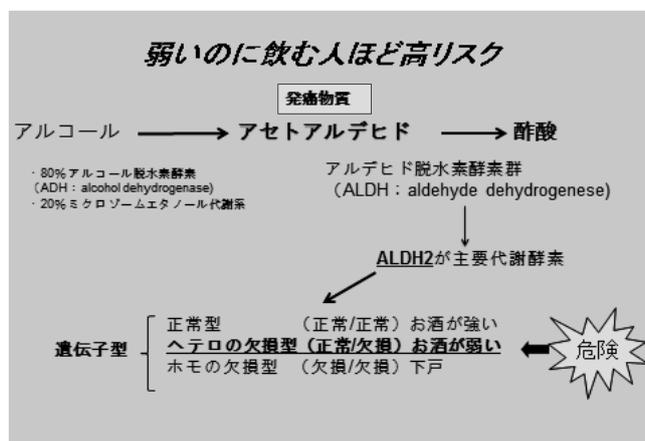
みなさん、フラッシュャーという言葉をご存知でしょうか？フラッシュャーとはお酒を飲むと顔が赤くなる体質をもつ人のことです。日本人の約40～50%はこの体質をもっていると言われていいます。そして近年、フラッシュャーは食道がんのリスクが高いことがわかってきました。

食道がんはどんな病気？

食道は肺や心臓、大動脈と隣接して体の中心を通過のどと胃をつないでいる臓器で、食道がんは食道の真ん中あたり（胸部中部食道）にできやすく、60～70歳代の男性に多い病気です。食道にがんができると初めは無症状ですが、徐々に胸の違和感やしみる感じが出現し、進行すると食事のつかえ感やかすれ声（嚙声）などの症状が現れます。症状が出るころには進行していることが多く、リンパ節や肺、肝臓に転移しやすいので、世界でも最も予後が悪いがんの一つです。

なぜフラッシュャーは食道がんになりやすい？

アルコールは肝臓で分解され、発がん物質であるアセトアルデヒドになります。通常なら酵素（2型アセトアルデヒド脱水素酵素＝ALDH2）の働きによってさらに分解され無毒化されますが、遺伝的にこの酵素が欠損している人はアセトアルデヒドを分解することができずに体に蓄積してしまいます。そして唾液などに含まれるアセトアルデヒドによって食道がんが発症してしまうのです。そして、フラッシュャーは約90%の感度・特異度でALDH2欠損者なのです。



もしかして私もフラッシュャー？

フラッシュャーかどうかは簡易フラッシング質問紙法にて簡単に判定できます。つまりビールコップ1杯で顔が赤くなる体質が、現在または飲酒を始めた最初の1～2年のいずれかにあったと答えた人はフラッシュャーです。毎日2合以上飲酒しているフラッシュャーは正常者と比較して食道がんの発がんリスクは約60倍と高く、これに喫煙も加えると100倍以上になるというデータもあります。

簡易フラッシング質問紙法

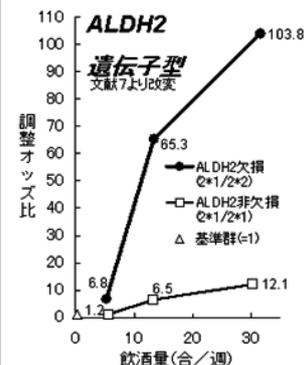
- ①現在、ビールコップ1杯程度の少量飲酒で、すぐ顔が赤くなる体質がありますか？
- ②飲酒を始めた頃の1~2年間は、ビールコップ1杯程度の少量飲酒で、すぐ顔が赤くなる体質がありましたか？

分類

- A: 現在フラッシングあり: ①=はい } フラッシャー
- B: 過去フラッシングあり(現在なし): ①=はい、②=はい } フラッシャー
- C: 何れもフラッシングなし: その他 } 非フラッシャー

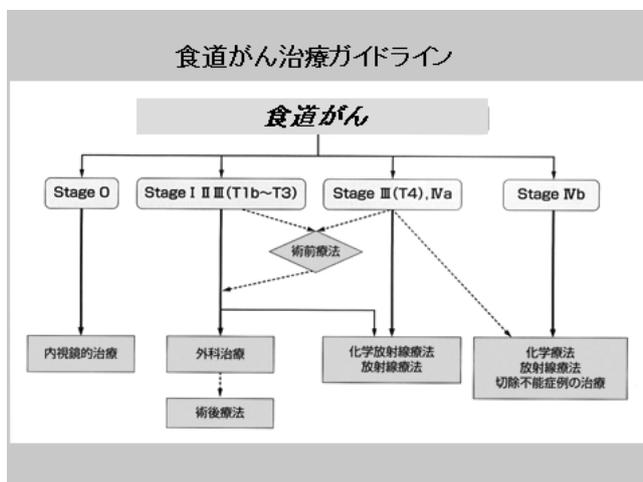
フラッシャー(は約90%の感度・特異度でALDH2欠損者)

ALDH2活性別にみた飲酒と食道がんリスク



食道がんの治療法は？

早期がん (stage 0) はほとんど内視鏡的に切除できます。もう少し進行した場合 (stage I) は手術を行います。最近では胸腔鏡や腹腔鏡を使った手術も行われています。さらに進行すると (stage II または III) まず抗がん剤の治療 (または抗がん剤と放射線) を行い、その後に手術を行うのが一般的です。がんが大動脈や気管にまで及んだり (他臓器浸潤)、肺や肝臓に転移した場合 (stage IV) はほとんどの場合、手術適応はありませんので抗がん剤や放射線治療を中心に行います。



食道がんの予防法は？

まずフラッシャーの方は毎日お酒を飲むのは止め、機会飲酒にするべきです。

フラッシャーでない方でも、多量にアルコールを飲むと分解しきれなかったアセトアルデヒドが体に蓄積 (二日酔いの原因物質はアセトアルデヒドです) されて、食道がんの発がんリスクは高くなりますので暴飲は避けましょう。その他、喫煙、熱い食事や飲み物、刺激物 (激辛なもの) の摂取は慎みましょう。

食道がんが心配な方は？

フラッシャー・飲酒家で食道がんが心配な方、食道の違和感・つかえ感などの症状のある方、他院で食道がんを指摘された方は下記外来までお気軽にご相談ください。

消化器病センター外科外来

・火曜・木曜 AM
・金曜 PM

担当：逢坂 由昭

平成24年12月から「がん緩和医療外来」を設置しました

当院では、患者さん本人・家族と相談しながら、患者さんにとって最適ながん治療（手術、放射線、化学療法、その他）を選択し、同時に患者さんの痛みや苦痛・不安を和らげる緩和医療を行っています。緩和医療を専門としている横山智央呼吸器・腫瘍内科医長（元東京医科大学病院 臨床腫瘍科科長）が中心となり、各専門医や腫瘍内科医と緩和ケアチーム（医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカー等）が共同で診ていく患者さん中心の診療体制をとっています。

現在、緩和病棟設置に向け準備中ですが、症状緩和目的での入院も一般病室（有料個室）で受け入れています。がん治療・緩和治療をご希望の方は「がん緩和医療外来」を受診のうえご相談ください。「がん緩和医療外来」は全て予約制です。

他院にてがん治療を行っている患者さんは、これまでの治療経過がわかる診療情報提供書を主治医から頂き受診してください。

担当医：横山 智央（呼吸器・腫瘍内科医長、外来化学療法センター長）

診察日：木曜日 午前

予約先：予約専用電話 03-3716-8124 平日（月～金）9時～16時

地域健康フェスティバル2013開催します！（目黒区医師会共催） （目黒区後援）

開催日時 平成25年2月24日 日曜日
午前11時から午後3時

開催場所 厚生中央病院内

実施内容 計測ツアー（血圧・骨密度などの測定、
医師・栄養士による相談）
なりきりキッズ写真館
（ナースやドクターに変身）
病院見学（手術室等）、AED操作講習
目黒区健康推進課の協力による受動喫煙についての展示
転倒予防体操等



病院の理念

- ・私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
- ・私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
- ・私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。

基本方針

「健全な経営と安全で質の高い地域中核病院を創造する」

行動目標

- ・私たちは、患者さんから選ばれる病院を創り上げる。
- ・私たちは、効率的で質の高い安全な医療を構築する。
- ・私たちは、安心と誇りを持って働き、一番大切な人を受診させたい病院にする。

患者さんの権利

- ・最良の医療を受ける権利
- ・病気について、理解可能な言葉で説明を受ける権利とその説明に対して意見を述べる権利
- ・プライバシーが守られる権利
- ・転院の権利
- ・診療情報の開示を求める権利

患者さんの義務

- ・自己の療養に関して病院職員に協力する義務

